

3月定例記者会見の概要

1 日 時 令和2年2月26日(水) 9時30分～10時30分

2 場 所 本庁舎3階 第一会議室

3 出席者 <報道機関>

- ① 朝日新聞社 南相馬支局 (南相馬記者クラブ会員)
- ② NHK 南相馬報道室 (南相馬記者クラブ会員)
- ③ 河北新報社 南相馬支局 (南相馬記者クラブ会員)
- ④ 共同通信社 福島支局 (南相馬記者クラブ会員)
- ⑤ 福島民報社 南相馬支社 (南相馬記者クラブ会員)
- ⑥ 福島民友新聞社 相双支社 (南相馬記者クラブ会員)
- ⑦ みなみそうまチャンネル

計 7 社

< 市側 >

- ①市長 ②林副市長 ③教育長
- ④小高区役所長 ⑤鹿島区役所長 ⑥総務部長 ⑦復興企画部長
- ⑧市民生活部長 ⑨健康福祉部長 ⑩こども未来部長
- ⑪経済部長 ⑫経済部中目理事 ⑬経済部笹野理事
- ⑭建設部長 ⑮総合病院事務部長 ⑯教育委員会事務局長

計 16 人

(司会進行) 秘書課長
(会議記録) 秘書課広報広聴係

【市政報告】

皆さんおはようございます。

お集まりいただきありがとうございます。

早速ですが、最近までの出来事についてご説明させていただきます。

はじめに、ジブチ共和国への義援金についてです。

1月15日から実施していた「ジブチ共和国洪水被害たすけあい募金」ですが、市民の皆様や市内の企業、団体の皆様から192万円の浄財が寄せられ、先にお届けした緊急募金分と合わせて、合計349万3千円となりました。

今回寄せられた募金については、本日、今村議長と松浦副市長が駐日ジブチ共和国大使館へお届けに伺っているところであります。

ご協力いただきました皆様はこの場をお借りしまして御礼申し上げます。

次に、ワールドロボットサミットに関する話題についてです。

2月15日に、小高区浮舟文化会館においてイノベーション・コースト構想シンポジウムが開催され、合わせてワールドロボットサミットのアンバサダー就任発表会も行われました。

春の福島ロボットテストフィールドの全面開所と共に、いよいよワールドロボットサミット2020福島大会の開催まで半年を切りました。

市全体で機運醸成に努めて参ります。

次に、植樹祭に関する話題です。

2月20日に、第2回鎮魂復興市民植樹祭実行委員会を開催し、令和2年度の基本計画案などが委員によって承認されました。

委員会では、次年度の市植樹祭について、開催日を令和2年6月7日（日）、場所は原町区北泉地内とされたほか、同日に第62回相馬地方植樹祭も合わせて開催するということで決定いたしました。

また、天皇陛下の御即位を記念して、全国植樹祭で上皇・上皇后両陛下が御手播きになられた種から育成した苗木を全国植樹祭会場跡地に植樹する予定です。

一人でも多くの皆様に参加いただけるように市内外に向けたPRなどに取り組んで参ります。

続いて今後の主な話題について触れたいと思います。

はじめに、市議会定例会についてです。

3月3日から開会となる第2回市議会定例会に提出させていただく案件は議案が54件、報告が1件の計55件を予定しています。

主な案件としては、令和2年度当初予算や医師の定年を改正する条例制定、令和2年度に供用開始となる復興賃貸事業所などに係る南相馬市産業創造センターの設置及び管理に関する条例制定などになります。

詳細はのちほど総務部長より説明いたします。

次に、市追悼式についてです。

3月11日に南相馬市東日本大震災追悼式を執り行います。

今年も市追悼式の中で、国追悼式の中継を行うほか、一般参列者の皆様向けに記帳所などを設け、犠牲になられた皆様へ哀悼の誠を捧げて参ります。

東日本大震災から来月で10年目を迎えます。当市の復興はまだ道半ばですので、今後も復興に向けてまい進して参ります。

次に、常磐線の全線運転再開に関するイベントについてです。

3月14日に、常磐線の全線運転再開及び直通特急列車の運行を記念した各種イベントを行います。

原ノ町駅では、甲冑武者による掛け声や、法螺貝の吹鳴などによる特急一番列車の出発式及び発車メロディのお披露目を行うほか、騎馬武者口上によるお出迎えなども予定しています。

また、鹿島駅では相馬救援隊による寄せ書きコーナーの設置が予定されていま

す。

次に、聖火リレーのセレブレーションについてです。

3月26日に雲雀ヶ原祭場地において聖火リレーのセレブレーションが開催されます。

当市ではオープニングプログラムとして、相馬野馬追を全世界にPRするために、騎馬武者による伝令や螺役による礼螺を披露する予定です。

組織委員会や県実行委員会と連携しながら、聖火リレー及びセレブレーションの成功に向けて、取り組んで参ります。

次に、施設などの開所に関する話題です。

小高片草運動場のテニスコート復旧工事が完了したことから、3月29日に再オープンイベントを行う予定となっているほか、4月1日には市健康福祉センターの開所式を予定しています。

また、市内の新設保育園に関しては、4月3日に「ユニソソワールド保育園」、4月4日に「おだか認定こども園」と「みなみそうまペンギン国際幼児園」の開園式が予定されています。

なお、これらの新設保育園の開設に伴い、令和2年4月1日時点の待機児童は解消される見込みです。

市の施設については、詳細が決まり次第、改めて情報提供させていただきます。

市政報告は以上となります。

続きまして、令和2年度当初予算の説明に移りたいと思います。

一般会計当初予算規模は547億円であります。

震災関連事業が239億円ということで前年比32億円減少、一方、通常事業が308億円ということで24億円増加となっています。

通常事業は台風19号の災害対応等が増加したというのが主な要因となります。

次に、一般会計予算規模と市税の推移についてご説明させていただきます。

予算のピークは平成26年の1,213億円となっており、その後は減少傾向になります。これは震災対応の事業費が減少していることによるものであります。

一方、市税につきましては今年度の当初予算をさらに上回り、震災前の水準を上回る見込みです。

令和2年度予算編成であります。復興創生期間の最終年度、復興創生期間の総仕上げとなる年ということ、更には市復興総合計画後期基本計画の2年目で、計画期間内に成果を出せるよう施策の取り組みを加速させる年、3点目としては令和元年東日本台風等による被害からの早期復旧を進める年であることを踏まえ、行政経営方針に基づき、「震災関連事業」「南相馬市復興総合計画の重点事業」「災害復旧事業」に集中して取り組む予算としました。

災害対策強化、令和元年東日本台風等災害復旧の推進ということでは、自主防災組織の補助金、あるいは防災行政無線整備推進事業等を予定しております。

次に復興総合計画後期基本計画の取り組みといたしましては、復興重点戦略として2点、「旧避難指示区域の再生」、「福島ロボットテストフィールドを核とした新産業創出と人材誘導」、重点戦略としては4点、「子育て世代に選ばれるまち」、「多様な人材が活躍するまち」、「健康づくりが盛んなまち」、「一円融合のコミュニティづくり」を掲げたものとなります。

具体的に復興重点戦略1「旧避難指示区域の再生」につきましては、今年度「公立学校適正化推進事業」として例えば、小高区小学校の統合検討を進めるほか、小高区内の「子どもの遊び場整備事業」、「被災地域農業復興総合支援事業」、「小高スマートインターチェンジ整備事業」等を予定しています。

続いて、復興重点戦略2「福島ロボットテストフィールドを核とした新産業創出と人材誘導」につきましては、「ワールドロボットサミット機運醸成事業」、拡充事業としまして「産業復興・企業誘致促進事業」、「産業支援センター運営補助金」の拡大、更には復興賃貸事業所の整備事業に予算化を行っているところです。

重点戦略1「子育て世代に選ばれるまち」ということでは、「中学生海外研修事業」についてこれまでのオーストラリアに加え、シンガポールでの中学生海外研修を実施したいと考えております。加えまして「台湾交流推進事業」についても拡大して参りたいと考えております。また、「学力向上教員配置事業」では、市独自採用教員を4名から5名に増員します。さらには「外国語教育推進事業」ということで、外国語指導講師の増員を考えております。

重点戦略2「多様な人材が活躍するまち」であります。まず「外国人活躍推進事業」、更には「外国人介護人材受入推進事業」、加えまして「UIターン就職支援助成事業」、「地域おこし協力隊活動事業」、更には例えば小高駅駅舎の利活用を通じた「移住定住推進事業」などに取り組んで参りたいと思います。

重点戦略3「健康づくりが盛んなまち」ということで、「健康増進事業」の拡充、「健康スポーツ推進事業」、そして、「体育施設整備事業」並びに「スポーツセンター大規模改修事業」などに取り組んで参りたいと考えております。また、「市民一体感醸成事業（鹿島区）」の中で、鹿島のトレーニング施設を建設するとともに、真野川沿いのサイクリングロードを整備する予定としています。

重点戦略4「一円融合のコミュニティづくり」ということで、「地域自治組織活性化推進事業」では行政区の適正な在り方の検討を行うとともに、地域自治組織の活性化を図って参りたいと考えています。更には「自主防災組織補助金」あるいは「敬老会開催事業費補助金」、令和元年度は市で実施しましたが、2年度は各地域で行う敬老会事業に対する補助金を、そして、「定額タクシー事業」では、料金体

系を変更し、更に利用者の負担を軽減する、使いやすい環境を整えて参りたいと思います。

以上が、令和2年度当初予算の概要となります。

【各部からの報告】

◆総務部

- ・第2回南相馬市議会定例会市長提出議案の要旨

【各部からの報告（資料提供のみ）】

◆復興企画部

- ・JR常磐線全線運転再開及び特急列車運行に関するイベントの開催について

◆健康福祉部

- ・令和元年度南相馬市東日本大震災追悼式の開催について

【質疑応答】

質問1：

新年度一般会計予算規模が昨年度と比較したとき、震災関連事業費でマイナス、通常事業費でプラスとなった要因を教えてください。

回答1：市長

震災関連事業費がマイナスとなった要因は、防災集団移転などの住宅関係事業や除染事業などハード事業の減少によるものです。

通常事業費がプラスとなった要因は、台風19号の復旧対応で約10億円、民間保育所関係の新規開設や幼保無償化対応などで3億円程度増加しているためです。

質問2：

小高区の子どものあそび場、鹿島区のトレーニング施設建設それぞれの整備理由と規模、使用開始時期及び真野川のサイクリングロード整備の具体的な内容を教えてください。

また、小高区の子どものあそび場と小高交流センターのあそび場の住み分けていくつもりかについても教えてください。

回答2：市長

子どものあそび場は3区全てで整備をする方針で進めてきています。

既に鹿島区、原町区は整備済みで、今回改めて小高区に完全室内型の施設を整備するものとなります。

鹿島区のトレーニングセンター施設建設は、一体感醸成事業の中で鹿島区民の皆さんからの要望と、市としても健康づくりを推進したいという政策が合致したことから整備するものです。

回答2：子ども未来部長

子どものあそび場については広さが約1,000㎡、完全屋内型で、遊具を中心

として配置する予定です。また、年齢によってエリアを分けるなど、安全安心な施設とすることを考えています。建設予定地は小高小学校の北西側、小高小学校の駐車スペースと小高幼稚園の敷地を利用する予定です。

また、利用されなくなる小高幼稚園も今回整備する子どものあそび場との一体的な利活用を考えているところです。

小高交流センターとの住み分けですが、小高交流センターが半屋内型の人工芝のスペースを提供していますが、今回整備する子どものあそび場は遊具が中心となります。オープンは令和3年3月の予定です。

回答2：鹿島区役所長

鹿島区のトレーニングセンターは、千倉グラウンドの東側の敷地に350㎡の平屋建て施設とすることを考えています。

サイクリングロードは、セデッテかしまから牛島まで総延長約11kmで計画しています。事業の内容としては、未舗装部分3,000mの舗装や要所毎の案内板設置などを予定しており、健康増進に役立ていただく計画です。

両施設とも令和3年度当初からの供用開始を計画しています。

質問3：

ワールドロボットサミットの機運醸成に関して、具体的にどのような事業に取り組むか教えてください。また、先日、「そうそうこども科学祭」がロボットテストフィールドで開催されましたが、これまで開催されてきたイベントと今回計画しているイベントは別物として考えているのか教えてください。

回答3：経済部理事

ワールドロボットサミットの機運醸成に向けては、ワールドロボットサミット自体を知ってもらうことと、会場である福島ロボットテストフィールドの認知度を上げることの二つが重要と考えています。

そこで、ワールドロボットサミット開催前の段階で、福島ロボットテストフィールドにおいて老若男女を問わずに楽しんでいただける市民参加型のイベント開催を予定しています。内容については、詳細が決まり次第ご報告させていただきます。

なお、「そうそうこども科学祭」は県振興局が地域振興のために開催したもので、市で計画しているイベントはワールドロボットサミットの開催に向けて行うものとなります。

質問4：

台湾とはこれまでホストタウン交流などを重ねてきた経過がありますが、今後どのような交流をしていくのか教えてください。

回答4：経済部長

今回計上した台湾交流事業としては、竹山鎮長を始めとした訪問団の受け入れ、市内中学生10名程度の竹山鎮派遣を予定しています。

訪問団受け入れは、相馬野馬追の開催時期を中心に進めることとしており、市内中学生の派遣は、中学2年生を対象に希望者を選考し、令和2年12月の冬休み期間中を検討しています。

更に竹山鎮からは文化財交流の話も来ていますので、教育委員会、文化財課を中

心に調整を図って参りたいと考えております。

回答4補足：市長

台湾との交流については、竹山鎮との交流、ホストタウン交流、中学生野球交流の3つが大きな柱となります。

今回計上した予算はその一つである竹山鎮との交流関係を強化・拡充するものです。

質問5：

コロナウイルスに関する市内への影響と今後の対応について教えてください。

回答5：市長

コロナウイルス対策につきましては、庁内で2回の連絡会議を開催し、今後の対応等を協議しているところですが、取り急ぎ、3月1日分までのイベントで3月1日開催の「ふるさと大使活動報告会&ミニコンサート」を延期とさせていただきました。3月2日以降については、昨日出された国の基本方針を受け、本日再度検討して参ります。

マスクの配布等の予防策については、今後の状況を見ながら対応する予定で、職員の行動規範などには過日庁内で周知したところです。

今後のイベントの開催については、「不要不急」、「不特定多数」がキーワードとこのことですので、基準を定めながら対応して参ります。

なお、医療関係については、今後、県を中心として市内病院の役割分担等など具体的な話があるものと考えております。

質問6：

ADR申し立てが何度目になるのかと、これまでの申し立て総額を教えてください。また、常磐線の特急列車出発式について、騎馬武者が何人いるか教えてください。

回答6：総務部長

ADRの申し立ては平成23年度から実施しており、申し立て回数は相当数あるため、把握しておりません。

申し立ての総額は68億円ほど請求しており、26億8千万円が支払い済みです。今回の請求は東京電力と合意していない分のうち約8億円について申し立てを行うものとなります。

回答6：復興企画部長

常磐線の特急列車出発式については騎馬武者2騎、螺役3人となる予定でいずれも中ノ郷騎馬会の協力を頂戴しております。

質問7：

当初予算で、通常事業が台風第19号等災害対応で10億円増とのことですが、元年度分で基金を取り崩したものがあつたと思いますが、総額を教えてください。

回答7：市長

令和元年度における災害対応経費としては、これまでご報告させていただいてきた予備費執行分と専決2回、補正1回となります。令和2年度分としては先ほどお

伝えした約10億円です。総額はのちほどお伝えします。

基金については、補助を受ける前の調査などが現在の制度上、全額国費があたり、市の財政調整基金で対応しています。極力、国や県の補助などで財源対応いただけるようお願いしているところです。

質問8：

財政調整基金の今年度の残高の見込みと、新年度の見込みはどうなっているのでしょうか。その差額の中に先ほどの台風第19号等災害対応の10億円が含まれていると考えてよろしいでしょうか。

回答8：総務部長

財政調整基金の元年度末残高見込みが33億5千8百万円、令和2年度の年度末残高見込みが17億1千2百万円となる見込みで、災害対応費10億円もそこに含まれます。

質問9：

福島ロボットテストフィールドについては、3月に工事完了、4月に全面開所、5月に式典が予定されていると思います。合わせてワールドロボットサミットが8月に開催されるなど令和2年度は節目の年になると思います。

改めてロボットテストフィールドとワールドロボットサミットをどのような形で発信、活用していくのか、市長の考えをお聞かせください。

回答9：市長

震災後、働く世代、若い世代、子ども達などを中心として人口が大きく減っており、人や産業を呼び込むためにも市の強みをPRしていきたいと考えています。

そういう意味で、福島ロボットテストフィールドの全面開所やワールドロボットサミットの開催などで大勢の方々が来られるこのタイミングで、そうした人達に南相馬市で新しい事業を行うことのメリット、あるいは市を挙げてそうしたチャレンジを歓迎しているということを伝えていきたいと考えています。

市として福島ロボットテストフィールドの利活用も大事ですが、更にそこを起爆剤として人材を呼び込むために伴走型支援を行っている状況です。

質問10：

医師の定年を延長した背景と、市立総合病院の赤字が続いている状況をどのように経営改善する方針か教えてください。

回答10：市長

この地域の大きな問題として医療人材不足があり、そうした背景を受け、他自治体の事例なども参考とした中で、70歳まで定年延長しても対応出来るということになったものになります。また、定年を延長することで他の地域で高齢、定年退職になった医師が当市に来るのではないかという期待もあります。

経営改善については、医師不足のため入院が取れていないことが赤字の要因と考えていることから、医師の確保が経営改善に繋がるものと考えています。

質問 1 1 :

コロナウイルスの話がありましたが、東日本大震災の追悼式が中止となる可能性があるのか、現時点で決まっていることなどがあれば教えてください。

回答 1 1 : 市長

追悼式については、当市では636人という方がお亡くなりになり、災害復旧も途上であることを踏まえ、様々な対応が必要になると思いますが、現時点では開催したいと考えています。

質問 1 2 :

市長が公約で掲げていた中学生海外研修事業について、令和2年度は個人負担が生じるようですが、その理由と今年度の取り組みの効果を教えてください。

回答 1 2 : 市長

昨年はモデル事業ということで、市が全額負担しましたが、修学旅行や他交流事業等でも2～3割の負担を求めていることもあり、総合的に判断した結果、1割程度の負担を求めた方が継続出来るという判断になったものです。

本事業では、中学生達に気付きの場を提供し、可能性や選択肢を広げて、チャレンジする気持ちを育むことを目的としています。効果については、昨年の事前研修や報告会を通じて成長を感じられましたので、ぜひ続けていきたいと思っています。